

ろくじさま 六字様

六字様 特長ある民俗行事

常陸大宮市域で8月に行われている年中行事に、六字様があります。緒川地域大岩や小舟の前屋・大貝、美和地域高部の大貝、三ツ木、東河戸、仲河戸などで伝承されてきました。

六字様の名称は「南無阿弥陀仏」、すなわち六字の名号に由来します。大岩、前屋・大貝、仲河戸などでは、六字名号を付した花飾りがつくられ、それを持って村回りをしたり、人々が参拝することが行なわれてきました。

前屋・大貝の六字様は、8月18日前後の日曜日に行われ、世話人たちが早朝から集落のセンターに集まって花飾りをつくります。世話人たちは花卉の形に切りだして縁を赤く染めた紙花を、「南無阿弥陀仏」「六字様」「病難除^{よけ}」と墨書した短冊とともに、しならせた割竹に結びつけていきます。花飾りの中央の柱には「南無阿弥陀仏」と墨書された^{あんどん}行灯を据えます。

かつては、完成した花飾りを担いで村回りをしましたが、近年は集落センターの庭に飾り置き、人々がお参りをします。夜には行灯に火がともり、紙花や短冊がほのかに照らされて、厳かな雰囲気となります。



民俗部会専門調査員 萩谷 良太氏
(土浦市教育委員会)

花飾りの意味

さて、前屋・大貝の六字様では、花飾りに使用するそれとは別に、世話人たちが短冊3種と紙花をセットにして紙繕^{こよ}りに通したものもつくり、各戸に配布します。各家ではこれを玄関などに飾って、厄除けとします。隣接する大字高部の大貝では、同様のものを集落の入口（境界）に立てます。仲河戸では参拝を終えた人々が花飾りから花を外して持ち帰ります。この花を棒につけて畑に挿しておく^と虫がつかないそうです。

これらのことから、六字様でつくられる花飾りには、災厄をふせいで集落や家、畑などを守る護符としての意味があると考えられます。

六字様は市域の限られた地域にだけ伝承されてきた特長ある民俗行事です。この行事が成立した背景を探ることも、私たち民俗部会の課題のひとつです。



▲六字様の花飾り（前屋・大貝）



▲世話人たちによる花飾りづくり（前屋・大貝）

■問い合わせ■ 文化スポーツ課 文化・スポーツグループ
☎52-1111(内線344)